

## 代表事例講評

### <地域整備部門>

「<sup>かさやとしんすいこうえん</sup>上谷戸親水公園」 （東京都 <sup>いなぎ</sup>稲城市）

上谷戸親水公園は、上谷戸川とその周辺の里の原風景（水田、竹林、屋敷林等）を残し、自然観察や水遊びが出来るよう整備された親水公園である。上谷戸地区は、周囲のニュータウン開発が進む中で、豊かな自然と歴史を偲ばせる郷土景観を活かしたまちづくりが進められ、中でもニュータウン地区と上谷戸地区の境界に配置された上谷戸親水公園は、既成市街地と新市街地の住民の交流の場となるよう整備されている。

整備後は、地域住民による清流を活かしたホテルの育成、季節に応じた多くのイベントや体験農業を実施し交流・体験の場とするなど、地域の活性化に活用されるほか、自治会により日常的に維持管理され、周辺住民のやすらぎと潤いの場として利用されている。愛着をもって活用されることにより、更なる地域コミュニティの活性化につながることを期待される。

### <地域整備部門>

「<sup>まつやま</sup>松山ロープウェー街」 （愛媛県 <sup>まつやま</sup>松山市）

松山ロープウェー街は、重要文化財 松山城への登るためのロープウェー駅舎への玄関口として古くから賑わう地区であったが、近年、中心市街地の衰退により空き店舗が目立つようになった。地域住民のコミュニティ促進だけでなく観光客が快適に長時間回遊できる空間づくりを目的とし、電線類の地中化や車道のスラローム化といった道路整備にあわせ、地元商店街による街全体の統一感を持ったファサード（建物外観デザイン）整備など、行政と住民が協働して景観整備が行われた。

日頃からボランティアによる清掃活動が行われ、また、通りを活用したイベントなどが実施されるなど、商店街の活性化に弾みがついてきており、利用客数が増加する一方で空き店舗率が減少している。今後も地域のメインエントランスとして周辺施設との一体的な活性化が期待される。

## < 地域活動部門 >

### 「<sup>くろべい</sup>黒塀プロジェクト」 （<sup>くろべい</sup>チーム黒塀プロジェクト / <sup>むらかみ</sup>新潟県 村上市）

黒塀プロジェクトは、ブロック塀の上に黒い板を打ち付け、外観のみを黒塀に変えるという簡易な方法により、市民の力のみで景観向上に取り組んでいる。

土蔵造りのお寺や古民家が並び、城下町の歴史漂う小路でありながら、ブロック塀により魅力が生かされていないと感じた市民の発案により、「黒塀一枚千円運動」を展開し、市民からの寄付のみによる少ない資金でありながら、市民のアイデアを活かして広範囲の景観整備を行っている。また、黒塀の小路をライトアップする「宵の竹灯籠まつり」を実施するなど魅力を高める活動にも取り組んでおり、黒塀の小路は村上を代表する風景として定着している。

更に、市民自らの手による本活動が、町屋を昔ながらの外観に戻す「町屋再生プロジェクト」に発展しており、市民の力による景観づくりの新たな可能性が感じられる活動である。

### 「<sup>もじこう</sup>門司港レトロ地区の観光振興・地域活性化」

（<sup>もじこう</sup>門司港レトロ倶楽部 / <sup>きたきゅうしゅう</sup>福岡県 北九州市）

門司港レトロ倶楽部は、歴史的建築物である JR 門司港駅等の保存活動に端を発し、地元まちづくり団体・地元企業・行政等が連携し一体的な組織として設立されており、地域ぐるみで観光振興・地域活性化を図る活動を行っている。

主な活動としては、歴史的建造物や公共空間を活用した絵画展や音楽ライブなどイベントの実施、門司港発祥の「バナナの叩き売り」の伝承や夜景景観づくりなど観光素材の発掘・育成、各種 PR 活動など幅広いソフト事業に取り組んでいる。こうした活動により、門司港レトロ地区は九州を代表する観光地として成長し、門司港のブランド化、伝統文化の保存育成、歴史的建造物保存への市民意識の向上などを果たしており、これからも地区の魅力の醸成・発信への貢献が期待される。

## <大賞部門>

### 「旧三国街道須川宿堰」<sup>きゅうみくにかいどうすかわしゆくせき</sup>（群馬県 <sup>まち</sup>みなかみ町）

須川宿堰は、宿場町の昔ながらの水路の景観と機能を復元したもので、地域に定着し親しまれるとともに、住民によって美しく維持管理されている。また、この地域一帯は手づくりを体験できる「たくみの里」として多くの観光客で賑わう地区である。

平成2年度に手づくり郷土賞を受賞した後も、地域住民による植栽や花飾りといった美化活動が実施されるほか、平成8年に「歴史国道」の指定を受け、電柱移設や舗装の整備等を行い、魅力的な空間づくりと歴史・文化的な街並みづくりが行われるなどハード整備が行われた。また、地域の活性化を目指す地元の若者によって、烏天狗御輿が平成16年から開催されるなど、地域の歴史資源の保全をきっかけに行政と住民による様々な取り組みが行われ、地域全体の魅力向上が図られている。

### 「妻籠宿の家並」<sup>つまごじゆく やなみ</sup>（長野県 <sup>なぎそまち</sup>南木曾町）

妻籠宿は、かつては中山道の宿場町として栄え、昭和40年代から宿場の町並みの保存に積極的に取り組み、昭和51年には国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。

全国に先駆けて保存活動に取り組んだ地域であり、当初より「売らない、貸さない、壊さない」の3原則を住民自らが貫き、家並の美観を守りつづけている。また、町家の保存だけでなく、電線を民家の裏へ通したり、ポストや看板にも景観への配慮を行い、空間全体として宿場町の面影の保存に取り組んでいる。手づくり郷土賞を受賞後20年以上経過した現在でも観光客数は約65万人を数え、地域の方の町並み保存に取り組む熱意により、有数の観光地として定着している。

### 「やきもの散歩道内 土管坂」<sup>さんぽみちない とかんざか</sup>（愛知県 <sup>とこなめ</sup>常滑市）

やきもの散歩道は、地域の名産品である常滑焼の千年の歴史を今に伝える常滑市を代表する観光エリアであり、その中でも土管坂は側壁に土留めとして焼酎瓶と土管が積み上げられた、常滑ならではの風情を感じさせてくれる一番の名所となっている。

手づくり郷土賞受賞後も、やきもの散歩道の魅力を発信するイベントや、地域に愛着をもった観光ボランティアガイドによる散歩道の無料案内、パンフレットやHPでの情報発信など、やきもの散歩道の魅力を活かす取り組みを発展させている。受賞当時（平成2年度）約2万5千人だった観光客数が、現在では約10万人と飛躍的に伸びるなど、地域固有の資源を地域振興につなげている。